令和3年度 県立水戸第二高等学校自己評価表

目指す学校像	民主的な国家及び社会の形成者としてふさわしい資質・能力を身に付け、国際的な視野をもった社会に有為な人財の育成を図る学校。 ○叡智・・・優れた知恵を獲得し、物事の事実や真理を探究する ○仁愛・・・情け深い心で様々な人たちと互いに尊重し合って交流する ○創造・・・豊かな発想をもちこれまでにない新たなものをつくる			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
1 新しい生活様式をいち早く積極的に取り入れYoutube動画配信システムを構築し、コロナウイルス感染症対策としての儀式簡略化や授業の動画配信が可能になった。また生徒の学びの保障のために寄与できる方法をさらに構築している。課題としては、授業時間確保のための係の負担が大きいこと、生徒が主体的・対話的な学習習慣を確立するために、各教科の課題の質と量の精選を行うこと、地域や保護者との信頼関係をさらに構築するための開かれた学校づくりの促進がある。	1 探究力と学びに向かう力の育成	① ICT機器(電子黒板等)を活用した教科横断的・課題解決型授業の研究と実践 ② 自主的・対話的で深い学びにつながる学習習慣の確立 ③ 「思考力・判断力・表現力」を育成する言語活動の充実 ④ SSH指定の効果的な活用と探究活動の充実 ⑤ 生徒自身がICT機器を積極的に活用できる力の育成 ⑥ 学校図書館活用の促進 ⑦ キャリア・パスポートの利活用及び促進	A A A A A A	A
2 令和2年度卒業生の国公立大学合格者は、116名にのぼり、合格者数としては近年最高を記録した。多くの生徒が高い志をもって進学を希望している。そのためには、大学で何を学ぶのか、それをどのように活用して自分の未来を切り拓いて行くか、を養う取り組みや受験環境の変化を的確に捉え、教育課題と授業改善を一体的に推し進める必要がある。	2 生き方を主体的に選択できる力の育成	① キャリア形成を視野に入れた適切な進路指導 ② 国際理解教育の推進による多様な文化を受容できる力の育成と深化 ③ 生徒会やHR等自治活動の充実による自律の精神と奉仕する心の育成 ④ 他者に配慮し、協働して問題解決を図る力の育成 ⑤ 部活動への積極的な参加	A A A A	A
3 不登校生徒が年々増加している。自らの命、他者の命を互いに尊重し合える力を養い、安全安心な居場所づくりとともに、不登校に対しては、多様性を認め合いお互いを尊敬できる人間関係を構築する必要がある。さらには、生徒がこれからの社会で「生き抜く力」の醸成に取り組む必要がある。	3 安心・安全を守る	① 自律的で責任ある生活習慣の確立 ② 一人一人に寄り添った生徒支援といじめの未然防止 ③ 教育相談機能の充実と生徒自身の自己解決能力の育成 ④ 校内点検の充実による危険箇所の早期発見及び学校安全計画の見直し ⑤ 危機管理マニュアルの中断のない見直しとともに自然災害避難時及び避難後の安全計画再確認	A A A A	A
4 70%を超える生徒が部活動に加入している。部活動の質的充実を図るとともに、生徒自身が学習と部活動の両立を図れるよう、また、部活動等で抜けた学習について、学習を保証する仕組みを考える必要がある。	4 開かれた学校づくり	① 地域の小中学校等と連携した教育活動の展開 ② ボランティア活動や部活動を通じた地域行事への積極的な参加 ③ 学校Webページの充実 ④ 保護者や学校評議員等との緊密・親密な連携	B B A A	A
	5 働き方改革の推進	① 勤務時間の管理と適正な勤務時間の設定及び勤務時間削減に向けた取組 ② 業務の役割分担と適正化にむけたPDCAサイクルの構築 ③ ICT機器を活用した業務の効率化及び情報の共有化による研修機会の確保 ④ 同僚性の発揮と組織で動く意識の徹底 ⑤ コスト意識を持ち、公務員としての自覚を持って職務に当たる意識の徹底	B B A B A	B

三つの方針		具体的な目標	評価		次年度への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的な目標) ・ 民主的な国家及び社会の形成者としてふさわしい資質・能力を身に付け、国際的な視野をもった社会に有為な人材育成	B	B	・ 高い志をもった社会人材を輩出するよう、学校、地域で生徒の育成を図る。
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的な目標) ・ 学校が生徒にとって、様々な力を身に付ける場所となるように、学校全体で「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を実現	A	A	・ 主体的・対話的で深い学びを教科・科目横断的に実施する。
		・ 教職員と生徒が学び合うことが当たり前となるように、オンライン研修等の機会を設け、効果的な取組を実施	A		
入学者の受入に関する方針 (アドミッション・ポリシー)	(短期的な目標) ・ 人文科学、社会科学、自然科学など様々な分野に興味を持ち、主体的に深く探究しようという意欲のある生徒	・ 学びを通して、将来のイノベーション創出を担う科学技術を身に付けようという意欲のある生徒 ・ 国際社会の諸問題を多角的な視点で考え、グローバルリーダーを志す意欲をもつ生徒。	A	A	・ 生徒主体の説明会や説明動画等、更に充実したものになるよう工夫し、本校の魅力を伝える。 ・ 各研究事業等に関心を持たせ、主体的に参加できるよう更に環境を整える。
	・ 学びを通して、将来のイノベーション創出を担う科学技術を身に付けようという意欲のある生徒		A		
	・ 国際社会の諸問題を多角的な視点で考え、グローバルリーダーを志す意欲をもつ生徒。		A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導	各教科の目標・シラバス等に基づいた密度の濃い授業を展開する。	・ 年度初めに、生徒が活用し易いシラバスを作成するとともに、毎時間、綿密な授業計画を作成し、それに基づき、生徒の能力を最大限に引き出す授業を行う。	A	A	・ 主体的・対話的で深い学びを軸に各教科の授業改善を深化し、効果的なICT活用を推進する。
		・ 常に授業内容の点検を行い、より一層の授業改善に努める。	A		
		・ より効果的な観点別学習状況の評価法を研究、推進する。	A		
		・ 効果的なICTの活用をさらに推進し、授業改善に取り組む。	B		
国語	1 基礎学力の定着と応用力の伸長(1②③)	・ 基礎知識を確実に習得させるために問題演習や小テストを定期的実施する。 ・ 知識を生かして自ら読み解く力を高めるために学習形態の工夫や学習材 (ICT機器等) の効果的な活用を図る。	A	A	・ 思考力、判断力、表現力等の育成、学習意欲向上、自律的学習スタイルの定着を目指し、学習形態の工夫やICT機器を含む学習材をより効果的に活用する。 ・ 新教育課程実施に伴い、「指導と評価の一体化」のために年次進行で観点別評価の研究を推進する。
	2 課題解決型の学習による思考力・表現力の育成(1①③④⑥)	・ 対話によって他者と関わり合い、学びを深める学習機会を設定する。 ・ 学年、図書部と連携して小論文学習を実施する。	A		
	3 自主的・能動的な学習姿勢の確立(1②⑤)	・ 家庭学習の習慣化のために授業と関連付けた自主学習課題を設定する。 ・ ICT機器も活用しながら目標設定と振り返りを行うことで、PDCAサイクルを構築させる。	A		
教 科	1 授業内容の工夫・充実(1①②③)	・ 課題の発見と解決に向けたいわゆるアクティブ・ラーニング的な指導を取り入れ、探究型授業の工夫を図る。 ・ 大学入学共通テスト・私大記述に対応するため授業内容、副教材の精選や進度等の調整をする。 ・ 主権者教育推進のため、時事問題を取り入れた授業展開を図る。 ・ 指導に生かす評価の工夫改善に努める。	A	A	・ 電子黒板とタブレット端末を連動させる等の工夫を凝らし、ICTを積極的に活用した授業を今まで以上に推進する。ICTの活用方法については、校内だけではなく他校の取り組みなどを参考にしながら、充実した活用を進める。 ・ 観点別評価基準を具体化させる。
	2 カリキュラムの検討継続(1④⑤、2①②)	・ SSH指定校として、文系科目におけるきめ細かな指導の検討を継続させる。	B		
	3 視聴覚教材の有効利用(1①②)	・ 各分野における視聴覚教材の積極的活用と活用方法の検討を継続させる。	A		
数	1 基礎・基本の定着を図る。そのための有効な方策を実践・研究する。(1②)	・ (1年) 教科書・問題集を活用し基礎計算力の充実を図るとともに、演習ノートを提出させ、家庭における学習習慣の確立を図る。また、章末テストを実施し基礎力の定着を図る。 ・ (2年) 問題集を活用し、家庭での学習習慣の定着を図る。全生徒に数学Ⅱ+Bを最後まで取り組む姿勢をもたせる。また、定期考査等を活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・ (3年) 問題演習の際、各項目の基本事項を確認し、テストを行うなどして基礎力の定着を図る。特に数学Ⅲ履修者には数学ⅠAⅡBの既習事項の問題集を活用し、基礎力の定着を図る。	A	A	・ 基礎的計算力や中学数学の基本事項が十分に定着していない生徒に対する指導方法の研究。 ・ パターンの暗記ではなく、学習内容の本質を理解し数学的に考察する態度を育成する指導方法のさらなる研究。 ・ 理工系の興味や関心を高める授業内容の検討。
	2 生徒の学力差や進路・個性に応じたきめ細かい指導法を工夫研究する。	・ (1年) ドリカムテストや定期考査の結果を活用し、学力の強化を図る。また、提出させた演習ノートやプリント等を活用し、個別に指導助言を行う。 ・ (2年) 章末テストや定期考査の結果を活用し、学力の強化を図り、演習ノート等の提出を通して個	A		

学	(1③3③)	別に指導助言を行う。また、各習熟度別に希望者課外を実施し、より高い学力への到達を目指す。 ・(3年)ノートやプリント等の提出を通して、個々の能力に合わせて個別に指導助言を行う。また、習熟度を考慮した平常課外を行い、個々の目標達成のための実践力を身に付けさせる。			
	3 SSH事業を含む本校の実態を踏まえた教材の配置・選択をし、その指導法を実践・研究する。(1④2①)	・大学入試に対応できるよう各大学・大学入試センター等からの入試情報に基づき、指導方法及び教材の選択について教員間の連絡・検討を密に行う。	B		
	1 自然科学への興味・関心を高めるとともに、科学的に探究する能力と態度を養成する。(1①②③④⑤)	・自然の原理・法則の理解を深めたり、思考力・判断力・表現力を身に付けたりするために、探究的な授業形態を通して個に応じた指導や創意工夫して実験・実習を行う。 ・教科横断的な取り組みや、身近な科学的現象を認識させることで、学習への動機付けを図るとともに、科学的思考力を育成する。 ・調べ学習やレポート提出の機会を通して、自発的に学習する習慣を涵養、定着させる。	A	A	・共通テストに見られるような予想される入試問題の変化に対応できるよう、論理的思考力はもちろん、確実な計算力や長文読解力の向上を目指す。 ・ICT環境の整備が進んでいるのでより効果的な活用をしていく。 ・コロナ禍においても、自律的に学習に取り組む為の取り組みを試みる。
2 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業を推進する。(1①②③④、4①②)	・大学・研究機関との連携を強化・継続することにより、課題研究を円滑に進める。 ・研究手法や科学的思考力など必要な能力を身に付けさせ、研究者の基盤作りを図る。 ・SSHについて、教員間の共通した理解を図り、教科横断的な取り組みを通して、実践的な活動を円滑に進める。 ・「小・中学校サイエンスサポート」を積極的に推進し、地域の教育活動と連携し、科学への夢を育むため教育支援を行う。	A			
保健体育	1 評価活動の工夫及びICT機器を利用した授業の実践。(1①)	・ITC機器を利用した授業の実践をし、身に付けさせたい学力についての評価を充実させる。	A	A	・タブレットを使用しての授業を実践するために、クラスルームを利用した課題の提出や調べ学習がスムーズにできるようにする。 ・観点別評価基準を具体化させる。
	2 「生きる力」を身に付けさせる授業を実践する。(1②③)	・グループでの課題学習をはじめ、実習を取り入れた授業(アルコールパッチテスト・心肺蘇生法)や視聴覚教材やメディアの活用により、より良い行動の選択ができるように授業を実践する。	A		
	1 評価活動の工夫及びICT機器を利用した授業の実践。(1①)	・種目ごとの観点別評価活動の具体化と、ICT機器を利用した授業を実践し、学年の進行に合わせた、身に付けさせたい運動能力についての評価を充実させる。	B	B	・今年度はハードル走や跳び箱の授業においてICT機器を使用して行ったが、他種目でも実践する。 ・観点別評価基準を具体化させる。
	2 授業で敏速な行動を身に付けさせる。(3①)	・集団行動の実践を通して、日常生活においても敏速に行動できるようにする。	B		
	3 体力・運動能力の向上及び生涯スポーツへとつながる授業を実践する。(1①②③)	・種目の特性に触れ、個人及び集団の活動を通じた課題解決学習の実践により、体力・運動能力の向上を含め、生涯スポーツへとつながるようにする。	B		
芸術	1 個性豊かな人間性と情操の育成(1①②、3①)	・ICT機器を活用したり、近隣の美術館やホールに足を運ぶよう声かけをしたりするなど、生徒が芸術に触れる機会を増やす。また、課題解決学習の設定によって、総合的に創造力や表現力を涵養する。	B	A	・新学習指導要領に即した学習計画と観点別評価への対応。 ・ICT機器の活用。
	2 基礎表現力の育成と学習環境の整備(1③、3③④)	・生徒の実態に応じた丁寧な指導により、基礎表現力を付け、意図に応じた表現方法、表現技法を創造に生かす。また安全で学びやすい学習教育環境となるよう整備に努める。	A		
	3 個人の能力・進路に応じた指導(2①)	・芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ、芸術系大学進学希望者の進路を実現させるための教育課程や年間計画を立案し、個の能力・適性に応じたきめ細やかな指導を行う。	A		
外国語	1 外国語学習の意義を認識させ、英語学習に対する意欲を高める。(1①②③、2②)	・英語の基礎学力の定着と向上を図る。 ・ALTとのTTやディベート活動を通して、英語を用いて情報を整理し、論理的思考に基づいたコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成する。	A	A	・効果的な指導のためにICT活用に努める。 ・4技能をバランス良く習得するために、授業における言語活動をさらに充実させていく必要がある。 ・基礎学力の定着および成績下位層への対応、大学入学共通テストのリーディングで求められる速読力の養成は今後の重要な課題である。
	2 授業において幅広い言語活動を行いながら、4技能をバランスよく指導する。(1①②③、2②)	・大学入学共通テストへの対応の充実と英作文指導を継続的に行うとともに、希望進路に対応したきめ細かい受験指導をする。	A		
		・英語表現やサイエンス・イングリッシュの授業を通して、英語による基礎的なプレゼンテーション能力を育成する。	A		

家庭	1 社会の変化に対応した指導の充実(1①、③)	・最新の情報を精選して教材として使用する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の情報や実習時のポイント等を、ICT活用でわかりやすく伝えたり提示したりする工夫が必要である。 ・被服室や調理室でも、電子黒板が使用できるようにしたい。 ・観点別評価基準を具体化させる。
		・衣食住の他、保育・福祉・消費生活など幅広い知識を身に付けさせる。	B		
	2 実験・実習、体験学習の工夫(2②、3③)	・実験や実習、実物の提示、グループワークを多く取り入れ、限られた環境の中で、1回でも多くの実験・実習を取り入れ、体験を通して具体的に学習させる。	A		
		・被服製作作品、課題プリントレポート等を期限までに提出させる。	A		
	・調理実習時の身支度を徹底させ、安全、衛生面に十分留意するよう指導をする。	B			
3 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の推進(2②)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームプロジェクトの意義を理解させ、実践させる。 ・家庭クラブにおける研究内容の充実を図り、昨年度同様の成果をあげられるよう計画的に研究や発表準備を進めていく。 ・JAや地域の小学校及び大学とのつながりを継続させながら、次年度も研究発表を行うことができることを目指し、新チームでの研究活動を開始する。 	A			
教務部	1 探究力と学びに向かう力の育成を踏まえた教育課程の編成(1①②③④、2①②)	<ul style="list-style-type: none"> ・SSHの研究成果を活かし研究題目を踏まえた教育課程を編成する。 ・教育課程の自己点検、自己評価を通して、水戸二高の将来像を見据えた、新教育課程の研究に努める。 ・教育課程編成における各教科間の共通理解を図る。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌、各学年と連携し、さらに活発な情報発信に努める。 ・校務支援システムの研究をすすめ、円滑に運用できるように努める。 ・ICT環境を整備しながら、教員によるタブレット活用を促進する。 ・常任委員会と連携し、積極的に生徒を主体とした学校PRを行う。
		2 各分掌間の円滑な連携と授業時間の確保(2①②、3③、5③)	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌の円滑な運営と連携を図る。 ・学校行事等の精選を行い、授業時間を確保する。 ・週ごとに授業交換を行い、自習時間のない時間割を編成する。 ・授業の動画配信について、より適切に活用できるよう研究する。 		
	3 情報管理の徹底と安全性の研究と成績処理(5③)	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムが円滑に運用できるよう努める。 ・ファイルサーバーのセキュリティーについて研究し、スムーズな運用に努める。 	B		
	4 ハード・ネットワーク、視聴覚機器の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット、電子黒板、教室用PC等のICT機器やwifiの維持管理に努める。 ・消耗品の在庫の管理に努める。 ・ネットワーク上のトラブルに速やかに対応できるよう研究する。 ・視聴覚設備、放送室・体育館の放送設備の適切な管理、運営に努める。 	A		
	5 開かれた学校づくりの推進(4①③④)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ビジョンの共通理解と広報活動を推進する。 ・ホームページの更新頻度を維持し、さらなる充実を図る。 ・公開授業参観をさらに充実させる。 ・常置委員会と連携し、生徒を主体とした学校PRを積極的に行う。 	A		
生徒指導部	1 基本的生活習慣の確立(3①)	<ul style="list-style-type: none"> ・公共マナーの向上を目指し、マナーアップ運動・学期毎の全体指導・月初めの登校指導を行い、生徒一人ひとりの規範意識を高める。 ・スマホ家庭のルールづくり運動を行う。また、ICTの活用に関するルールづくりを行う。 ・不審者や痴漢被害等に対して、警察と連絡を取り、生徒の安全を守る行動を考える。 ・生徒会と協力して、生徒の生活について考える。(制服変更検討委員会への参加) 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生の制服が新しくなることで、生徒と話し合い校則やルールの変更を考える。 ・旧制服のズボンの採用をどうするか。 ・外部講師による交通安全講話を実施したい。 ・学校生活実態調査をいじめ未然防止のために有効活用する。
		2 交通安全指導の推進(3①)	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県警や水戸警察署に協力を依頼し、自転車の安全運転指導や交通講話を実施する。 ・交通安全週間に合わせて生活委員会・生徒会役員で登校指導を行う。 ・自転車安全点検(2回)を行う。 		
	3 いじめ未然防止・早期発見(3②)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活実態調査(3回)を行う。 ・いじめ対応の研修会の開催やいじめ未然防止授業を行う。 ・教員間で生徒情報を共有する機会をつくる。 	A		
特別活動部	1 自主的活動の育成(2③)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に、学校行事・委員会活動・リーダー研修会(前後期2回)・ホームルーム活動・部活動等、積極的に取り組み、リーダーを育成する。 ・学校内外の教育環境に自主的に関わり、行動する姿勢を育成する。 ・コロナ禍の状況の中で工夫をしながら自主的に活動できる力を育成する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・社会状況(コロナも含め)に敏感に対応しながら諸活動に工夫をして新たな形を創造する。 ・身近に取り組める環境に対する活動を積極的に行う。 ・諸活動の企画・運営を自分たちの手で
		2 奉仕の精神の涵養と環境に対する意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア精神を養うため、校外のイベントなどにも積極的に参加する。 ・環境問題に継続して取り組み、節電・ペットボトル・キャップ回収等を行う。 		

	(4①②)				行うことで自己の将来のために必要な力を考える姿勢を身につける。
	3 キャリア・パスポート活用及び推進(1⑦)	・学校行事や毎日の生活を通して自己を見つめる姿勢が身に付き、キャリア・パスポートを活用して自己の将来とのつながりが見通せるよう働きかけていく。	A		
進路指導部	1 進路に対する意欲の向上 学習時間の確保と自学自習力の育成指導 (1②③、2①)	・進路講演会をはじめ、キャリアガイダンス・大学見学会・大学模擬授業など、これまで実施してきた行事の継続と内容の深化を図る。 ・全学講座(年間13日)や課外を効果的に計画・実施する。特に、長期休業中の課外については生徒の要望を踏まえて、柔軟且つ弾力的に運用する。 ・1学年の段階から幅の広い情報提供を行い、生徒の進路希望の視野を広げる。なお、自学自習の習慣化を図るために、集中学習会を1学年と2学年で実施する。特に2学年においては、早めの受験体勢への切り替えを図っていく。	B		
	2 進路目標の設定および学習意欲の喚起による学力向上(1②③、2①、3①)	・予習・授業・復習の学習習慣を定着させる。2年次までに英語・数学・国語の3教科の基礎力を養い、3年次で地歴公民や理科の学習を中心に据えるよう、3年間を見通した学習の在り方を指導する。 ・生徒の適性や興味関心を踏まえた上で、適切な文理選択ができるように情報を提供するなど学年に協力する(特に1学年)。 ・進路資料・個人面接用資料の作成と頒布、活用を推進する。 ・卒業生から聞く学習法(OGインパルス)を2年生対象に開催するが、可能な限り1年生にも機会を拡大する。 ・保護者会などを通して保護者との情報の共有化を図り、生活・学習面のバックアップ体勢を築く。	A	A	・生徒に対して、進路面で多様なアプローチを行っているが、その内容が保護者に対してあまり伝わっていないきらいがある。保護者に対するアピールの方法も工夫する必要がある。
	3 生徒の第1志望実現のための援助促進、難関私立大学を含む国公立大100名以上合格の達成(1②、2①)	・大学入学共通テスト出願説明会および国公立大学出願先検討会の計画・実施を行う。 ・生徒の個性に応じて、推薦入試活用への助言を行う。 ・各学年の小論文指導担当と連携し小論文指導説明会開催と小論文模試への援助をする。 ・新学習指導要領の実施、大学の学部学科改編など、本校を取り巻く環境の変化に対応し、最良の教育課程を絶えず模索する。 ・共通テストに向けて、万全の準備態勢を整えると共に、各大学の受験情報の提供に努める。	A		
図書部	1 「読書センター」としての機能の充実を図る。(1③⑥)	・前期・後期1回ずつ校内読書週間を実施し、LHRでビブリオバトル(前期)を行う。 ・LHRを利用しての読書活動を支援する。 ・図書等の資料の充実に努める。 ・電子書籍の購入についての検討を継続する。	B		・生徒図書委員の研修等、コロナ禍で実施できなかった行事を例年通り実施できるように申し送りをする。
	2 「学習センター」「情報センター」として資料の提供および利用指導を行う。(1①④⑤⑥、4③)	・学校のホームページに図書館の専用ページ「水戸二高図書館」を開設する。 ・水戸二高図書館の蔵書検索を生徒個別の情報端末からもできるように進めていく。 ・教科と連携し、授業に役立つ資料を充実させる。 ・図書館を利用した探究・道徳「STARTプログラム」の授業の一部を担うとともに「STARプログラム」の冊子を作成する。 ・使用全教科書を閲覧できるようにしておく。 ・職員からの図書購入希望に随時対応する。 ・図書館内に教科学習資料の展示を適宜行う。 ・視聴覚資料の充実を図る。 ・図書館を利用する授業に対し、資料利用のオリエンテーションを行う。 ・小論文の指導における資料提供に積極的に協力する。	A	A	・進路指導部や各教科と連携するなど、生徒の利用を高める工夫をする。
	3 生徒図書委員会の充実を図る。(1⑥、2③)	・必要に応じて適宜図書委員会を開く。 ・生徒図書委員の校外研修を行う。 ・中央・水戸地区の研修会に積極的に参加する。 ・図書委員による授業に役立つ本の展示や図書館カフェ等を定期的に行う。 ・生徒図書委員による図書の選定、店頭選書を行う。 ・「図書館便り」「図書館報」の発行を行う。	A		
保健厚生部	1 校舎内外の清掃の徹底と環境の整備(3①④)	・ゴミの分別処理・減量化を呼びかける。 ・防災対策を含め、校舎内外の安全点検を行う。 ・危機管理マニュアルの見直し・安全計画の再確認。 ・換気・健康チェック・手指の消毒の徹底。	B		コロナ収束がまだ見えない状況なので、次年度も換気・健康チェック・手指消毒の徹底に務める。

	2 健康の保持・増進 (3②③)	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康状態の把握に努め、適切な指導・援助を行う。 心身の相談活動を推進する。 	A	A	生徒が安心・安全に生活できる環境を整える。
	3 奨学生関連事務の的確な運営	<ul style="list-style-type: none"> 奨学生募集の情報を確実に伝達する。 提出書類作成手続きの指導を適切に行う。 	A		
渉外部	1 P T A活動を円滑に実施する。(4)	<ul style="list-style-type: none"> 関係する分掌や学年と連携、協力して円滑に実施していく。 P T A役員及び各種委員会委員と学校との協力体制の構築に努め、「P T Aだより」を通して教育活動を家庭に伝える。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、P T A役員及び各種委員会委員と学校との協力体制の構築に努める。 コロナ禍で思うように対面での交流が出来ない場合でも、オンライン等の工夫をする。 H Pの秀芳会のページを更新する。
	2 保護者との連携のもとで生徒の学習環境の整備を進める。(3)	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの要望に耳を傾けながら、P T A役員間の信頼と連帯強化を図る。 学習諸活動の環境整備、および学校活性化のための提言を行う。 P T Aの諸活動の記録を蓄積し、今後の活動や研究発表等に活かす。 	A		
	3 同窓会「秀芳会」との連携	<ul style="list-style-type: none"> 連携をさらに推し進め、本校の教育活動への各種支援に対する理解を深める。 	B		
教育デザイン部	1 S S H事業の推進 「水戸二高S S Hサイクルや主体的・協働的な学びを活用した、科学技術を牽引できる女性の育成」 (1①②③④2①4①②)	<ol style="list-style-type: none"> 科学教育プログラムにより、科学に対する興味や関心、知識、理解を深め、科学的思考力を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> 環境科学 ・ S S H講演会 ・ 自然科学体験学習 ・ 小中学校サイエンスサポート 数理科学セミナー 科学研究プログラムにより、科学技術を牽引できる女性としての発想力や問題解決力を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> S S 課題研究 ・ サイエンスイングリッシュ ・ 海外セミナー ・ サイエンスツアー 研究発表会および交流会 ・ 科学系部活動 ・ サイエンス&テクノロジーコンテスト 科学系の専門家および科学系大学院生によるサポート 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 事業の精選と進化を目指す。具体的には、「情報」の履修へ向け、本年度は数理科学セミナーに替わりデータサイエンス特別講座を実施した。次年度以降は、環境科学や総合的な探究の時間のあり方を考える。 ユネスコスクール加盟へ向け、今年度キャンディデート校として認定を受けた。引き続き、国際性を高めるための実効的な取組について研究を進める。 科学探究の効果的な指導方法についてロールモデルを研究開発し、普及に努める。 学校H Pの更新と掲示板の活用にも努める。
	2 国際理解教育の推進 (2①②4①②)	<ol style="list-style-type: none"> 多様な文化や価値観を持つ人々との交流を通して、グローバルな視野を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> 国際理解講演会 ・ 日本文化鑑賞会 ・ 国際理解活動や交流会への参加 グローバルフォーラム ・ グローバルウィーク ・ グローバルカフェ ・ 道徳講演会 ユネスコスクール加盟へ向けての研究と準備 グローバルリーダーを育成する。 <ul style="list-style-type: none"> 海外研修 ・ 海外進学および留学の支援 ・ グローバルクラブ 	A		
	3 探究・教科横断的学習の推進 (1①④⑤)	<ol style="list-style-type: none"> S S H4期目申請へ向けて、全職員および諸関係機関との連携により取り組む。また、S S H15年間の成果について検証し、本校独自の研究開発目標を明確にする。 生徒の学習を支える評価法の研究と開発を行う。 既存の探究プログラムについて検証し、プログラムの更新と開発を行う。 	B		
	4 積極的な情報発信 (4③5③)	<ol style="list-style-type: none"> 校内での情報共有を進めるとともに、掲示板の積極的活用と充実を図る。 学校H Pによって、諸活動を随時発信する。 	B		
事務部	1 学校の窓口としての的確な接遇を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 電話や窓口等においては、誠意ある態度・対応によって県民サービスの向上を図るとともに、生徒や保護者との関わりを通じて相互の信頼関係を高めるよう取り組む。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化に伴い大規模な修繕箇所が増加していることから、県教委と連携を図り、計画的に大規模修繕を行い、施設の長寿命化に取り組む。
	2 予算を計画的・効率的に執行する。	<ul style="list-style-type: none"> 限られた財源の中、将来を見通した教育環境整備を図るため、計画的・効率的に予算を執行する。 	A		
	3 安心安全な学校生活のための施設管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設の日々の点検及び迅速な修繕により、生徒が安心安全に教育活動を行える教育環境の設備・保全に取り組む。 	A		

第1学年	1 高校生としての生活習慣の確立(2④⑤3①④②)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習記録等を利用しながら、個人面談等を通じて高校生としての自律的な生活スタイルの確立を促し、高校生活を有意義に過ごせるように支援する。 ・公共マナーや社会ルールを身につけ、品位ある行動がとれるよう指導する。 ・清掃や整理整頓を常に心がけるようにさせ、安全で落ち着いた学習環境を整える。 ・部活動・ボランティア活動等などの特別活動を通じて、協調性やリーダーシップを育てながら、学校生活の充実を図る。 	A	<p>全体として生徒は学校の規則を守り、落ち着いた生活を送ることができている。</p> <p>一方で、生活面・情緒面で指導や支援が必要な生徒に対して全体的に取り組める体制を作ることが課題である。</p> <p>また、進路指導においては適正な文理選択を実現することができた。次年度は学部・学科の選択と入試を見据えた勉強が実践できるように指導したい。</p> <p>そのため、基本的な学習習慣を定着させ、量と質の両方で向上が見られるように指導したい。</p>
	2 学習習慣の確立と学力向上(1②③⑤)	<ul style="list-style-type: none"> ・「予習・授業・復習」の学習サイクルを確立するなど、家庭学習を習慣化することで授業内容の定着を図る。 ・生徒が学ぶことの意義を理解し、意欲をもって主体的・能動的に学習に取り組めるように支援する。 ・「道徳」における探究活動を通して、自己の在り方生き方について考えさせるとともに、資料を活用する力やプレゼンテーション力を養成する。 	A	
	3 進路意識の涵養(2①)	<ul style="list-style-type: none"> ・LHR・個人面談や、進路講演会・キャリアガイダンス・大学見学会などの進路の行事を通して、生徒が自分の将来について主体的に考え、適切な文理選択ができるように支援する。 	A	
	4 SSH・国際理解教育の推進(1④2②)	<ul style="list-style-type: none"> ・SSHに関する自然科学体験学習、課題研究発表会、講演会等への積極的な参加を促し、個々の可能性の発見や伸長を図れるよう支援する。 ・国際理解のための諸行事を通して異文化の理解を深めるとともに、多様性を受容し、グローバル化する社会の中で自己を活かして生きる姿勢を育てる。 	A	
第2学年	1 進路目標の明確化(2①③②③)	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会・大学模擬授業などの進路関係行事を効果的に実施し、進路意識の向上を図る。 ・進路指導部と連携を密にし、的確な進路情報の提供に努める。 ・個人面談を充実し、生徒の適性や希望の的確な把握と助言に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望実現に向け、学年・教科・進路指導部との協調した取り組みをより一層推進する。 ・高校生活の集大成として、特別活動部と連携し、学校行事や部活動、委員会活動等へ意欲的に参加できるよう支援する。
	2 生活習慣・学習習慣の確立と学力向上(3①1②)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の予習・復習を軸とし、自ら課題を見つけ、主体的かつ計画的に学習に取り組むことができるよう支援する。 ・課外・小テストなどを適切に設定し、個に応じた学習指導に努める。 ・公共マナーや社会ルールを身につけ、品位ある行動がとれるように指導する。 	B	
	3 LHR・総合的な探究の時間・特別活動等の活用(2②③④1③④⑤)	<ul style="list-style-type: none"> ・百合セミナーを通して、多様な歴史や文化を受容できる力を育成するとともに、環境問題への適切な認識や取り組みができるようになるための支援をする。 ・道徳プラスを通して、規範意識を高め、協働する姿勢を育む。 ・特別活動への積極的な参加を支援し、活動の意欲を喚起し、協調性やリーダーシップ等を育てながら、学校生活の充実を図る。 ・調査や研究および発表に取り組むことで、論理的思考力やプレゼンテーション力を養成する。 	A	
第3学年	1 進路目標の明確化と進路希望の実現(2①)	<ul style="list-style-type: none"> ・面談や講演会、集会等を通して目標の確認を行いながら、計画的に進路希望の実現を図る。 ・進路指導部と連携しながら入試情報を提供し、生徒、保護者の的確な進路選択を援助する。 	A	<p>目標の大部分は達成できているが、予測できない急なコロナ対応を迫られ、残念ながら十分に成果をあげることができなかった部分もあった。</p>
	2 自学自習力の育成と学力向上(1②③)	<ul style="list-style-type: none"> ・自学自習においては、優先順位は的確か、無理なく効率的な学習をしているかなど、常に生徒自身に自己評価させる指導を行う。 ・各教科と連携しながら、必要に応じて課外学習や補習を実施する。 	A	
	3 心身の健康と成長(3①②③④)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な学校生活を送れるように、学年と養護教諭やスクールカウンセラーが情報を共有し、各家庭と連携しながら生徒支援を行う。 ・集会やLHR、行事等をとおして、生徒の精神的な成長を促す働きかけを行う。 	A	
	4 特別活動等の充実(2③④⑤)	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生活の集大成として、諸活動へ意欲的に参加できるよう環境を整える。 ・学校行事や部活動、委員会活動等においては、リーダーシップを発揮して各集団をまとめ、十分な成果が得られるよう援助する。 	B	

※ 具体的目標の後のかっこ内の数字は、1ページの学校の重点目標1①～5⑤との関連を示す。

※ 判定基準：A…非常に良くできた B…良くできた C…普通 D…やや不十分 E…不十分